

中国貴州省西南部の少数民族の食文化に関する研究

(4) 苗族、布依族の身長・体重

名古屋女大生研 ○末田香里 酒井映子 南広子 八田耕吉 平野年秋*

目的：戦後の日本における体位の向上に食生活、栄養素摂取量が大きく関与してきた。中国貴州省の少数民族の食生活の一つの指標として身長・体重を測定し、体位と食生活との関連について検討する。

方法：苗族男性103名、女性89名、布依族男性221名、女性103名、計516名の体重・身長を計測した。肥満度の指標としてBMI（体重kg/（身長m）²）をもちいた。

結果：①成長期の体重・身長を日本人（1987年）と比較すると、両民族で、男女とも成熟するのが遅い傾向が認められた。②成人男性の年齢別体重・身長・BMIを以下に示す。

男性 年齢	体重kg			身長cm			BMI		
	日本人	苗族	布依族	日本人	苗族	布依族	日本人	苗族	布依族
26-29	63.8	52.6	53.5	169.9	159.4	163.3	22.10	20.70	20.06
30-39	64.2	53.8	53.7	168.0	157.9	161.8	22.75	21.58	20.51
40-49	63.2	52.3	52.7	164.8	158.9	160.7	23.27	20.71	20.41
50-59	61.2	50.1	52.4	162.8	158.0	159.0	23.09	20.07	20.73
60-69	58.0	54.0	48.5	160.5	162.5	157.8	22.52	20.45	19.48

日本人のそれと比較して、体重・身長の値がともに小さく、BMIも小さい値であった。③成人女性の年齢別体重・身長およびBMIの値は、日本人のそれと比較して小さく、男性と同じ傾向であった。④布依・苗族を比較すると、布依族のほうが背が高い傾向が認められた。これは布依族のほうが動物性タンパク質食品の摂取数が多い傾向と一致するものであった。

*内島幸江、中国科学院昆明植物研究所 胡国文 龍春林 謝立山